

わすれるな！ 戦争の時代 私たちのまちのできごと 朝鮮人少女たちの身の上におこったこと

— 真実を過去に埋もれさせず、自分たちの問題として受け止めよう —

アジアと太平洋での戦争の末期、不利になる戦局の中、大日本帝国政府は、戦争継続と増産のため、国民を根こそぎ動員しました。成人男子は兵隊に、それ以外の男子は徴用で工場に、学生は学徒出陣で戦場に、中学生、女学生、国民学校の生徒は工場労働に、未婚の女子を挺身隊に組織し職場に動員しました。お国のために払った犠牲に国はどう責任をとったのでしょうか。

日本の官憲は学校を使って朝鮮人少女を募集した。女学校にいけるとか親を助けることができると言って、飛行機を生産していた三菱名古屋道德工場でも300人の朝鮮人少女たちがはたらかされていました。彼女たちのうち6人は東南海地震で、命を失いました。空襲の恐怖も味わいました。彼女たちの苦難の事実が明らかになったのは20年ほど前のことでした。過去の闇に光をあてる仕事を率先されてきた高橋さんやお仲間のおはなしを聞きましょう。強制連行、労働は過去、の外国人の問題でしょうか。

12月6日（土曜日） 午後1時30分

講師 高橋 信さん（名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会）

会場 呼続コミュニティーセンター（新郊中学西隣）

地下鉄桜通線桜本町下車徒歩300m 名鉄さくら駅下車徒歩100m 市バス薬師通1丁目

連絡先 ニシウラ ヨシオ 052-819-2005